気分爽快
夏のカヌー体験!!

8/10 福住温水ため池を訪れた水土里ネット網走川
施設見学会から

びほろ町

ぎかい

こんなことを決めました 6月定例会 …… 2P
北海道後期高齢者医療広域連合議会議員選挙を執行
美幌町産材活用住宅助成制度を創設
副町長の選任に同意、補正予算などを審議

一般質問 7人登壇 …… 5P

7月臨時会 …… 13P
動産の取得、補正予算を審議

議会ってどんなとこ？ …… 14P
「一般質問」について

No.185 平成19年9月

6月定例会

平成19年第４回定例議会は６月19日から21日までの３日間の会期をもって開会され、町長から２件の行政報告、北海道後期高齢者医療広域連合議会の議員選挙、副町長選任の同意、７人の議員による一般質問や各会計補正予算などの審議を経て、予定どおり21日に閉会しました。

会期日程と審議のあらまし

19日　会期を３日間と決定した後、町長から建設工事の進捗状況及び農作物の生育状況について行政報告を受けました。

次いで一般質問に入り、平野、松浦、大原、岡本の４議員が登壇。町政課題、政治姿勢、マニフェスト実現に向けた対応、公立高校再編問題などについて活発な論議を展開しました。

一般質問に７人登壇

20日　前日に続き、坂田、柏葉、大江の３議員が登壇。福祉行政、子育て支援、季節労働者対策などについて質しました。

次いで、北海道後期高齢者医療広域連合議会の議員選挙を行った後、任期満了を迎える副町長の選任に同意、退任に伴う人権擁護委員候補者の推薦を適任としました。

町提案の議案をいずれも原案可決

21日　開会後、町道路線の認定、辺地に係る総合整備計画の策定、町長等の給与条例の一部改正、補正予算などを審議し、町提案９議案をいずれも原案どおり可決。

次いで地方財政に関する意見書等３件を可決した後、各公社の経営状況報告や専決処分、例月出納検査等７件の報告を受け、当初の予定どおりの会期で閉会しました。

こんなことを決めました

北海道後期高齢者医療広域連合議会議員選挙を執行

北海道後期高齢者医療広域連合が設置され、広域連合議会に選出する町村議会議員の候補者の届出を受け付けたところ定数を上回ったため、本町議会においても議員選挙を執行。その結果を次のとおり選挙長に報告しました。

投票総数　13票
有効投票　11票
無効投票　２票
有効投票中
幕別町議会議員　中橋友子　６票
釧路町議会議員　北原文雄　５票

後期高齢者医療制度の開始に向けて

◆後期高齢者医療制度

現行の老人保健制度に変わり、新たに設けられる75歳以上の全ての方が加入する高齢者医療制度。医療機関で負担する患者負担は、医療費の１割（現役並所得者は３割）。

町長等の給与等に関する条例の一部改正

厳しい財政状況下にあって行政改革を推進するため、特別職等の給料月額を任期中に限って減額（町長15パーセント、副町長・教育長８パーセント）するもの。７月１日施行。

辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定

田中・駒生・古梅の各地区において辺地対策事業債を活用して個別排水処理施設の整備、農道整備、除雪機械の導入を図るため、公共的施設の総合整備計画を定めるもの。

◆辺地に係る公共的施設の総合整備計画

辺地の指定を受けた地域が公共的施設の整備を行う際に財政上の特別措置として有利な起債が受けられるが、そのためには当該地域の総合整備計画を作成し、議会の議決を経て総務大臣に提出する必要がある。

第２福梅地区支線農道改良・舗装工事

人事

人権擁護委員候補者の推薦

野　昭憲 氏
（新任）
美富188番地の４

副町長の選任

染谷　良 氏
（再任）
栄町３丁目３番地の６

次の方の選任に同意、推薦に適任と答申しました

職員一丸となって美幌町発展のために全力を尽くします

副町長に選任をいただきました染谷でございます。ご同意の決定をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

今から４年前、助役として選任いただき、今日に至っているところですが、この間、激動の時代を反映して様々な厳しい局面にも向き合うことがあり、自らの力不足によりご心配やご迷惑をおかけしましたが、議員各位のご指導をいただきながら、何とか職責を果たすことができました。皆様に深く感謝申し上げます。

今ここに、副町長という大役を再び仰せつかった訳ですが、改めてその職責の重さを前に身の引き締まる思いであります。

変革の時代が続いており、町を取り巻く環境も厳しさを増しておりますが、土谷町長の下、職員一丸となって、新しい時代にふさわしいまちづくりに懸命に取り組んで参る覚悟であります。

美幌町発展のために全力を尽くして参りますので、議員の皆様のご支援とご鞭撻をいただきますようお願いいたします。

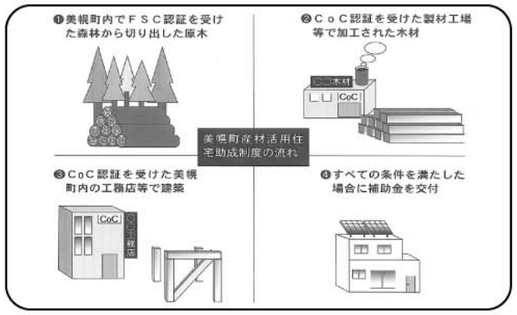
〈副町長の就任あいさつ（要旨）〉

美幌町産材活用住宅助成制度を創設

一般会計補正予算（第１号）

今回の補正は、後期高齢者医療制度改正に伴う電算システム整備のための委託料や町産認証材を使用して住宅を新・増改築する際に一定程度の助成を行うための補助金などが追加されました。歳出追加の主なものは次のとおり。

・後期高齢者医療広域連合事業費（医療制度システム開発等委託料など）　２４２３万８千円
・地域生活支援事業業務委託料（障害者ケアマネジメント業務委託料）２６３万６千円
・障害者自立支援事業費（障害者福祉システムプログラム改修委託料）２５５万２千円
・妊婦一般健康診査委託料（町費負担による健診回数の増）　79万１千円
・町産材活用住宅助成事業補助金（総使用量25立方メートルを上限に１立方メートル当たり３万円を助成）　３００万円
・森林認証振興対策費補助金　20万円



特別会計等補正予算（第１号）

各会計の歳出及び支出追加の主なものは次のとおり。

・国民健康保険特別会計は、後期高齢者医療制度改正による保険者システム改修委託料　１３７８万６千円
・介護保険特別会計は、後期高齢者医療制度改正による介護保険システム改修委託料　２４１万円
・公共下水道特別会計は、公共下水道事業再評価業務委託料　５００万円
・病院事業会計は、診療用機器等修繕料　９７６万５千円

各会計補正額と補正後の総額

会計名		補正額	補正後の予算
一般会計（第１号）		4,611万3千円	93億2,580万4千円
特別会計	国民健康保険（第１号）	1,378万6千円	27億5,079万3千円
	介護保険（第１号）	241万円	11億7,894万4千円
	公共下水道（第１号）	500万円	11億3,730万4千円
病院事業会計（第１号）		925万9千円	17億7,638万5千円

平成19年9月1日発行

長年の懸案・花見橋改修に見通し

町道路線の認定

町道第1号の一部（コミセン～美幌バイパス瑞治入口）を道道に昇格し整備することに伴い、その交換として道道から降格となる区間（道道北見美幌線の一部）を新たに町道第770号として認定するもの。

町道第770号

町道第１号の一部が道道に昇格

路線名	起点	終点
町道第770号	字大通南１-13-１先 （国道240号）	字昭野41-３先 （道道北見端野美幌線）

町長の行政報告

建設工事の進捗状況

（5／21現在）

本年度に計画した工事件数29件の内、3件（建築1、上水道2）を発注し、消化率では件数10・3％、工事費で15・4％。

債務負担行為で施工する第131号道路外3改良舗装工事は10月10日で、平成18年度旭公営住宅4号棟電気設備工事、同給排水衛生設備工事、同木製建具工事、同建築主体工事は、9月14日で完成の予定。

農作物の生育状況

（5／15現在）

- 水稲は、おおむね良好で平年並み
- 秋まき小麦、春まき小麦は平年並み（3日早い）
- てん菜は、平年並み
- 玉ねぎは、平年並み

こんなことを聞きました

一般質問

7人登壇

…質問者と質問事項…

平野茂夫議員――――5頁
1喫緊の町政課題
①美幌町財政の健全化に対する町長の考え方
②公共事業の激減による不況対策
③安全安心の美幌町行政構築

松浦和浩議員――――6頁
1政治姿勢
①町民生活への優先課題
②選挙公約
③美幌町の財政運営

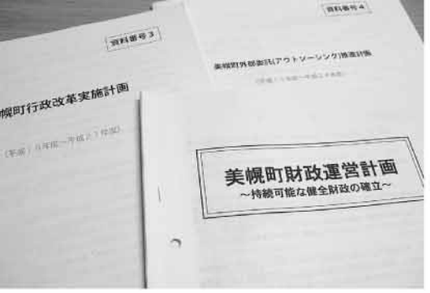
大原　昇議員――――7頁
1政治姿勢～マニフェスト実現
2福祉行政～子育て支援

岡本美代子議員――――8頁
1医療行政～オホーツク圏の高度医療の充実
2教育行政～公立高校再編案
3介護保険～介護サービスの利用
4政治姿勢～町長のマニフェスト

坂田美栄子議員――――9頁
1夢輝くまちづくり
①パークゴルフ場、室内ゲートボール場の整備
②頑張る地方応援プログラム

柏葉久子議員――――10頁
1美幌博物館～管理・運営についての具体的対策・対応
2ひとり親家庭～次年度からの対策・対応

大江道男議員――――12頁
1季節労働者対策
①冬期技能講習制度の代替事業
②季節労働者能力開発支援助成金制度の復活
③創業支援融資制度の充実
2ワンコインバス路線の拡充～現状の2路線の早急な拡充
3子育て支援～乳幼児医療費無料化の拡大
4高校の統廃合～美幌高校、美幌農業高校の統廃合問題への対応



町政課題

最重要課題である財政健全化への対応は

町長　財政運営計画を見直し、持続可能で安定した財政構造の確立を目指したい

平野茂夫議員

平野議員　地方交付税の削減が続く中、町政の最重要課題は財政の健全化と考えるが、今後、どう取り組んでいくのか。

町長　平成17年度からの5カ年を計画期間とする財政運営計画を策定し、行財政改革やアウトソーシング（外部委託）等の取り組みを進めている。社会経済情勢の変化など不透明な面も多くあるが、国の動向を見極めながら財政運営計画の見直しを行い、基金取り崩しに頼らない持続可能で安定した財政構造の確立を目指したい。

再　国は新たな財政指標として実質公債費比率を導入し、一定の水準を超過した場合、自治体独自による事業を制約する考えである。一部報道によると、本町は管内で2番目、道内では17番目に高い数値になるとのことだが、町長はどのように認識しているのか。

町長　公表されている数値は15年度から17年度の3カ年平均値であり、確かに高い数値ではあるが、その要因は過去の社会基盤整備等によるものであり、今後は徐々に低減していく見通しである。起債の借り換えや事務事業の選択と集中化を図ることで健全な財政運営に努めたい。

再　厳しい財政状況下にある実態を町民に周知することで、財政健全化に向けて理解と協力を求めていくべきでは。

町長　財政問題はわかりにくい面もあるができる限り伝える努力はしていきたい。財政の健全化と行政サービスのバランスは大変難しい問題と認識しているが、町財政を預かる立場として知恵を出して行政運営にあたりたい。

再　人件費の抑制について考えがあれば。

町長　引き続きアウトソーシングを進める一方で、組織運営の手法についても総合的な視点で検討していきたい。

高規格道路の早期建設に向けては

〝関係市町村と連携して施設整備の実現を強く要請している〟

平野議員　公共事業が激減し、地域の経済は閉塞感に満ちている。道路整備の建設促進に向けた取り組みを伺いたい。

町長　管内総合開発期成会をはじめ、北海道横断自動車道・北見網走間建設促進期成会、道東縦貫道路整備促進協議会等、関係市町村と連携しながら、地域発展のために必要な公共施設の整備を国や道に対して要望してきている。町内の国道、道道については具体的な改善要望を関係機関と継続的に協議しており、その成果として、国道39号線高野地区の登坂車線整備、道道嘉多山美幌線の改良工事、道道北見端野美幌線旧豊岡小学校前T字路の交差点改良工事などの事業が進んでいる。

再　北見から女満別空港・網走を結ぶ高規格幹線道路の整備に関して情報があれば説明を。

建設水道部長　国の整備計画では、当面着工しない区間とされているが、地域にとっては重要な区間であり、早期建設を関係市町とともに陳情している。

再　国や道が実施する事業については地元発注を働きかけるべきではないか。

町長　入札制度の透明性が求められている中、地域に限定した業者選定は非常に困難である。

美幌バイパス

町民が安心して生活できる安全なまちづくりの具体策は

〝危機管理基本指針を策定　初動体制に万全を尽くしたい〟

平野議員　町民が安心して生活できる安全なまちづくりの具体策をお聞かせ願いたい。

町長　日常からあらゆる事態を想定し、不幸にして災害等が発生した際の初動対応が十分に発揮できる体制を整えることが重要と考える。このため、18年12月に美幌町危機管理基本指針を策定し、小さなことでも日常から点検を行うこととした。さらに各部局において作成する個別マニュアルを体系化し、庁内全体で共有することで組織的な危機管理を図るべく、整備を進めている。

再　町民の安全と安心を守るのは町長としての責務であり、万一の場合、最終的な責任をどう持つ考えか。

町長　それぞれの事案によって責任の重さは異なるものと思われるが、政治的な判断によって責任を全うしていきたい。

政治姿勢

優先的に取り組む町政の課題はなにか

町長　マニフェストに掲げた全ての項目が重要課題であり、その実現に全力を尽くしていく

松浦議員　町政を取り巻く課題の中で優先的に取り組む課題があれば伺いたい。

町長　財政の健全化、少子高齢化への対応、地域における安全安心の確保、雇用確保と創出、第一次産業・商工業の振興など課題は山積しており、その全てが優先課題と認識している。財政問題も含めマニフェストに掲げた公約の実現に向けてしっかりと取り組んでいきたい。

再　景気向上対策として優先的に取り組む課題は何か。

町長　農業を中心とする第一次産業が町経済の基盤であるが、農業政策は厳しい局面を迎えている。国や道に地域事情を訴えていく一方で、農業用水や後継者対策など必要な施策を展開していきたい。

再　地域で働く人々の所得向上対策についての考えは。

町長　地域の企業を守ることが雇用の確保と地域経済の活性化につながることから、町内において経済が循環する仕組みを確立できないか検討したい。

再　医療福祉等の社会保障政策について考えがあれば。

町長　国が制度設計を行う中で基礎的なサービスを担っている地域が苦労している現状にあるため、地域が抱える実情をしっかりと国に訴えていく。

再　教育問題についてはどう取り組むのか。

町長　高校再編問題をはじめ重要な課題が多いが、地域の子どもは地域で守っていくことを基本姿勢に、町並みに子どもたちの声があふれる環境を整えていきたい。

公約実現に向けた具体的な対応は

〝政策会議で考え方を説明検討を指示している〟

松浦議員　選挙公約に11項目を掲げていたが、実施に向けた具体的な考え方を説明願いたい。

町長　水道未普及地域の解消については早期着手を目指したいが、水道ビジョンを策定する中で事業手法も含めて検討していきたい。車座トークは月2回、町長自らが町民の皆さんと向かい合う場を設けるものであり、できる限り早期に実施する。地域サポーター制度は住民と行政との距離を近づけることで信頼関係を築いていく狙いがあり、現在、基本的なルールづくりを進めている。

再　地域サポーター制度は職員を各地区の担当に配置するとのことだが。

町長　町内には67の自治会があるので管理職1人が2～3地区を担当するイメージを持っている。

再　町税の0・5パーセントを特定の目的に措置するとのことだが、その特定の目的とは何か。

町長　自治会提案事業の財源としたい。各自治会に均等に配分するのではなく、地域のお年寄りや一人暮らしの方を守るなど独自の活動を行う自治会に対して、行政が側面から支援することを想定している。

再　保健、医療、福祉の連携と地域ネットワーク化の具体的な考えがあれば伺いたい。

町長　保健、医療、福祉の各分野を縦から横の関係へと見直すことで、町民一人ひとりの命と健康を守る体制を確立したい。

再　職員手当、管理職手当を見直すことで4年間2500万円を削減するとのことだが具体策はあるのか。

町長　行政改革の一環として取り組んでいくが、今後、内容を精査のうえ提案したい。

公約に掲げた財源の措置と財政運営計画との整合性は

〝18年度決算の状況を分析して計画見直しを進める〟

松浦議員　公約実現にあたっては一定程度の財源を措置するとしているが、財政運営計画との整合性をどう図るのか。

町長　18年度決算の状況を分析したうえで、財政運営計画及び中期財政試算の見直しを行っていく。

再　マニフェストでは今後4年間に2億9千万円の財源を捻出できるとしているが、実現は可能なのか。

町長　町有未利用地の売却や民間委託を積極的に推進するなど、公約の実現に向けて取り組んでいきたい。

松浦和浩議員

陸上自衛隊美幌駐屯地隊舎

政治姿勢

公約の最重要項目と優先順位は

町長　全てが重要課題であり、実現に向けて本年度から積極的に取り組んでいく

大原議員　町長は多くの公約を掲げて当選を果たしたが、公約の中で最重要項目に位置付けているのは何か。優先順位はあるのか。実現に向けてどう取り組んでいくのか。

町長　小さくてもキラリ夢輝くまちづくりを目指すため、マニフェストには①町長が出向く車座トークの定例化②地域サポーター制度の導入③自治会提案事業の支援④駐屯地施設の充実整備⑤妊婦さんの救急体制の確立⑥水道未普及地域の解消⑦中小企業への融資・補助の見直し⑧新規就農者・農業従事者への補助の見直し⑨パークゴルフ場・室内ゲートボール場の整備⑩町産材活用住宅助成制度の創設⑪保健・医療・福祉の連携と地域ネットワーク化、以上の11項目を掲げて町民の皆さんと約束した訳だが、その全ての項目が重要課題である。実現に向けては財政運営計画を見直す中で財源を捻出し、本年度よりできるものから取り組んでいく考えであり、既に政策会議において各部局にはマニフェストの考えを説明し、検討、指示している。

再　駐屯地の部隊縮小が懸念される中で部隊の充実整備を求める陳情については、射撃場の誘致など提案型の陳情とすべきではないか。

町長　防衛予算も厳しく人員削減も進んでいることから、駐屯地対策はこれまで以上に力を入れていかなくてはならない。あらゆる手段で情報収集に努める一方、町有未利用地を提供することで施設整備を求めていくなど具体的な提案を検討していきたい。

再　月2回の車座トークを実施するとのことだが、地域からの要望を受ける場になるのでは。実施にあたっての考えがあれば伺いたい。

町長　町民と行政との距離を近づけていく必要がある。そのためにも町長自らが積極的に出向いて行くことが大切。はじめての試みで思うように進まないことも予想されるが、地域サポーター制度の導入も含め、まちづくりの意見交換の場として前向きに取り組んでいく。

再　水道未普及地域の解消は最重要課題と考えるが今後どのように取り組んでいくのか。

町長　水道が未普及となっている地区は町内に14地区あり、約1100人が生活している。事業手法や負担水準など複雑な問題を抱えているが、水道ビジョンに盛り込むことで総合的かつ計画的な整備に向けて早急に検討したい。

大原議員　地域の中で親、子どもがともに育つ環境、拠点をつくる考えはないか。

町長　子育て中の親が集い、育児の悩みや子育てに関する情報を交換する場として子育て支援センターを運営しているが、今後も事業の充実を積極的に図りながら町民ニーズに応えた事業展開を目指していきたい。

再　訓子府町では子育て中の母親がボランティアとして集うことで、地域に暮らす親、子どもが成長できる仕組みを実践している。こうした取り組みについて町の考えがあれば伺いたい。

民生部長　本町では子育てを終えた方を対象に育児ボランティアの養成講座を行うことで子育て支援に関する事業をお手伝いいただいている。子育て中の母親が自発的に活動できる環境にはないが、今後、そのような動きがあれば町の空き施設を提供するなど前向きに対応していきたい。

再　子育ては地域全体で取り組んでいく課題であり、育児と教育の両面からサポートできる体制が望ましい。ボランティア組織の立ち上げを支援することも考えてみてはどうか。

町長　地域で活動する方々を応援することが行政の役割でもある。できる範囲で支援協力していきたい。

大原昇議員

地域に親と子どもが集える環境を整えてはどうか

〝子育て支援センターを拠点に事業の充実を図りたい〟

地方財政に関する意見書

意見書を提出しました

国民がゆとりと豊かさを実感し、安心して暮らすことのできる社会を実現するため、地方自治体の役割はますます重要になっています。

この間の三位一体改革によって、地方自治体の財政運営は深刻さを増し、地方税の増収があるとはいえ、地方交付税が7000億円削減され、結果として自治体の財政運営は厳しさを増す一方です。

平成19年度から導入される、いわゆる「新型交付税」についても、地方交付税の財源保障機能の縮小が懸念されているところであります。

地方自治体の責務は、住民の暮らしと安心・安全を守ることです。そのためには、地方自治体にきちんと財源が保障されなければなりません。地方財政を削減することにより、地方間の格差がますます広がることが懸念されます。

したがって、国においては、次の事項について実現するよう強く要望いたします。

1　地方共有で共同の財産である地方交付税を一方的に削減しないこと。財源保障機能と財政調整機能を併せ持つ制度として引き続き堅持、充実することにより、自治体間の税源の偏在をなくしていくこと。また、新型交付税においても、財源保障機能を維持し、対象を拡大しないこと。

2　地方財政計画は、投資から経常への需要額のシフトの流れ、少子高齢化への経費をはじめとする社会保障関係経費、具体的には介護保険、障害者自立支援法、後期高齢者医療に基づく経費などが適正に反映したものとすること。

3　自治体の自主性を奪い、自治を侵害し、住民に負担を押し付ける債務調整を含めた自治体破綻法制を導入せず、自治体の自主的な再建努力を支援する仕組みをつくるようにすること。

意見書を提出しました

医療行政

オホーツク圏の高度医療充実に積極的な対応を

町長　管内市町村と連携して医療環境の充実確保を強く訴えていきたい

岡本美代子議員

岡本議員　北見赤十字病院では4月から血液内科の入院治療を他の医療機関に依頼しているが、地域住民が安心して高度医療を受けられるよう、オホーツク圏の自治体が連携して、国、道に訴えていく考えはないか。

町長　網走管内の中核病院である北見赤十字病院は内科医の減少から新規入院患者の受け入れを旭川赤十字病院に依頼し、外来患者のみを診察する態勢へと変更したため、専門的な高度医療が受けられない事態を招いている。全国的な医師の偏在が社会問題となる中、高度医療対策は国や道において取り組むべき重要かつ緊急の課題である。オホーツク地方で安心して生活できる医療環境を確保するためにも、管内市町村と連携を図りながら、国、道、関係機関に医師の確保を強く訴えていきたい。

岡本議員　道教委が発表した新たな公立高校適正配置計画案によれば、平成23年度から26年度の見通しとして、美幌高校と美幌農業高校の再編について職業学科のあり方も含めた検討が必要としている。道教委は同一町内にある道立高校を統合・再編の対象とするとの考えを持っているが、従来同様に2校存置を求める活動を展開することで問題はないのか。

教育長　昨年8月に設置した美幌町高等学校再編対策協議会において2校存続を求めていくことが決定されており、これまでも陳情、要望、要請活動を展開してきたが、新たな計画案が示されたことを受けて、今後の考え方や方向性を見出していかなければならない。子どもたち、美幌町にとって、どのような形がより望ましいのか、慎重に協議・検討の上、あるべき姿を求める行動に移していきたい。

町長　町の将来と基幹産業である農業を支える人材を育成する観点から、現段階においては2校存置を訴えていくべきと考えている。

再　この地域におけるあり方を真剣に議論する時期にきているのではないか。

教育長　実態として中学校卒業者数が減少している状況にある。対策協議会に加えて関係者による新たな組織を立ち上げ、原則としては2校存続を要請しながらも、将来に向けた美幌の高校のあり方についてしっかりと議論を重ねることで、現実性のある要請活動を進めていきたい。

岡本議員　介護保険制度の導入から6年を経過したが、家族や親類の理解がないために介護サービスを受けたくても受けられない人がいる。在宅介護家庭に制度の趣旨を理解いただくための周知が必要と考えるが。

町長　介護保険制度は、要介護高齢者等の尊厳の保持、利用者本位、高齢者の自立支援、利用者による選択（自己決定）を基本理念に、真に必要なサービスプランに基づいてサービスを受けるものである。制度の理念、サービス提供までの仕組みを理解いただくことが大切であり、町広報誌を通じて周知していきたい。

民生部長　町民生部や地域包括支援センターにおいても介護保険制度の活用に向けたPRに努めたい。

美幌農業高校

美幌高校

高校再編計画案に対する今後の対応は

〝対策協議会等で将来に向けた美幌の高校のあり方を論議したい〟

介護サービスに対する町民の理解を深めるべきではないか

〝制度の趣旨、仕組みを町広報誌を通じて周知していきたい〟

意見書を提出しました

北海道の農業は、安心・安全で良質な食料の安定供給をはじめ、国土や環境の保全、地域経済の活性化など多面的機能の発揮に重要な役割を果たしています。

こうした中で、農産物の貿易ルールなどを決めるWTO農業交渉や日豪EPA交渉が進められており、北海道経済の柱である農業が大きな打撃を被ることが危惧され、危機感を持っています。

本年2月から交渉が再開されたWTO農業交渉は、米国政府が議会に付与されたTPA（貿易交渉権）期限の6月末の大筋合意に向け、農業交渉のファルコナー議長が新たな提案を示すなど、交渉が急速に進展する可能性が高まっています。

我が国の食料自給率は40パーセントと大半を海外に依存している現状の中で、上限関税の設定などは、国内農業生産や国民の命や暮らしに直結する重要課題であり、断じて認めるわけにはいきません。

また、日豪EPA交渉においても、本道の重要農産物である米や小麦、乳製品、牛肉、砂糖などの関税が撤廃されれば、農業はもとより関連産業と雇用、さらには地域経済全体に甚大な打撃が及ぶことは必至であり、その影響額は、北海道においても約1兆4000億円にも達すると試算されています。

したがって、国においては、WTO農業交渉及び日豪EPA交渉に当たって、農業・農村が果たす多面的機能の発揮や食料主権の確保や、本道の農業・農村をはじめ地域経済や雇用に打撃が及ぶことのないよう、次の事項の実現について、強く要望いたします。

1　WTO農業交渉について

(1)農業・農村が果たす多面的機能の発揮や食料主権の確保を図るため、各国が多様な農業の共生・共存ができる農業モダリティを実現するよう確固たる交渉姿勢で臨むこと。

(2)上限関税の設定には断固反対するとともに、重要品目については各国の裁量が発揮できるよう十分な数を確保し、本道農産物の重要品目である米や小麦、でん粉、雑豆、砂糖、乳製品などにかかわる適切な国境措置を堅持すること。

(3)国内農業の維持を可能とする関税率水準の設定や関税割当、国家貿易体制の堅持、特別セーフガードの維持などの国境措置を確保すること。

また、「緑の政策」の要件緩和など国内支持政策に関する適切な規律を確保すること。

2　日豪EPA交渉について

(1)米や麦、牛肉、乳製品、砂糖など本道農業の重要農産物を関税撤廃の対象から除外すること。なお、衆・参農林水産委員会の決議を踏まえ、「交渉中断」を含めた毅然たる態度で臨むこと。

WTO及び日豪EPAなど重要　農産物の貿易交渉に関する意見書

意見書を提出しました

夢輝くまちづくり

パークゴルフ場・室内ゲートボール場整備の考えは

町長　基金条例の制定を足掛かりに早期整備に向けた検討を進めていく

坂田美栄子議員

坂田議員　これまで、多くの町民がパークゴルフ場、室内ゲートボール場の整備を求めてきたが、厳しい町の財政事情から実現されることなく現在に至っている。町長は、将来の建設に向けた取り組みを進めることを公約に掲げていたが、今後の具体策について説明願いたい。

町長　パークゴルフ場や室内ゲートボール場の整備は、地域内外の交流推進、ゆとりと安らぎ空間の形成など地域の活性化に資することから、早期実現に向けて取り組んでいきたい。施設整備の場所、規模、実施時期は明言できる状況にないが、将来の建設に向けた基金条例を平成19年度中には制定したい。

再　現時点における施設整備の候補地や事業手法など、明らかにできる部分があれば示されたい。

町長　今後、具体的に詰めていくことになるが、パークゴルフ場については一般的に公認コースと言われている54ホールを下回る規模は想定していない。最低でも54ホールの施設を整備する場合、他の自治体の事業費を見ると3億円から4億円程度は必要かと考えている。室内ゲートボール場については、町有施設や民間の空き店舗を改修することで事業費を縮減するなど、新設にこだわることなく整備手法について検討していきたい。

再　基金条例を設けることで計画的に財源を措置する場合、どの段階で施設整備に着手する考えなのか。

町長　多額の事業費を捻出するには基金以外の財源も当然に必要となるため、国や道の事業の活用に向けて検討していかなくてはならない。町民が長年待ち望んでいる施設であり、基金条例の制定を足掛かりに早期整備の実現を目指す考えである。

頑張る地方応援プログラムへの今後の対応

坂田議員　総務省が創設した頑張る地方応援プログラムの第一次募集が行われ、町は子育て支援プロジェクトを応募したようだが、地場産品ブランド化や定住促進、観光振興について応募する考えはないか。

町長　頑張る地方応援プログラムは、地域の特色を生かした施策を前向きに取り組む自治体に対して地方交付税を措置する制度であり、一市町村あたり単年度3千万円を限度に3年間交付される。応募にあたっては、具体的な成果目標を掲げて取り組む必要があるが、地場産品ブランド化、定住促進、観光振興については、現時点において3年以内での事業展開が困難と判断した。今後、循環型森林資源利活用・林産業振興プロジェクトや地域新エネルギー導入利用促進プロジェクト等について、応募する方向で取り組んでいきたい。

再　子育て支援プロジェクトが認められ、地方交付税が措置さ

（坂田議員続く）

公約の進捗状況は

〝検討を指示したところ〟

岡本議員　町長はマニフェストの中で、地域サポーター制度の導入や自治会提案事業の支援について平成19年度中に実施、中小企業及び新規就農者等への融資・補助について平成19年度中には見直しに着手するとしているが、進捗状況について説明願いたい。

町長　今後のまちづくりには地域力の結集が必要であり、行政と地域との連携が重要と考えている。ご指摘の項目については6月に開催した政策会議において検討を指示しており、本年度より出来るものから早急に取り組んでいきたい。

〝子育て支援を応募、追加応募の準備を進めている〟

（坂田議員続き）

れた場合、その財源を活用して新たに事業展開する考えはないか。病児・病後児保育や障害児保育の拡充、児童虐待防止及び要保護児童対策の強化など、子育て支援の充実を幅広く検討する余地があるのでは。

総務部長　プロジェクトの事業内容を追加・見直すことは可能であり、他市町村の事例も参考にしながら、町として取り組めるものがあれば、その都度、対応していきたい。

再　子育て支援事業については他の地域と比べると本町の取り組みが進んでいるものと認識しているが、本制度に応募する以上、町の姿勢として積極的に新たな事業メニューの導入を検討すべきでは。

町長　本制度で措置される地方交付税は一般財源という性格を持っており、総合的な行政を推進するための貴重な財源となっている。子育て支援対策は重要な政策課題であり、今後も幅広い視点で取り組んでいく必要があるが、町が抱える懸案事項は山積しており、新たに措置される地方交付税を有効に活用することで、町民生活の向上に努めていきたい。

美幌博物館

美幌博物館の有効活用と今後の展望は

教育長　必要最小限の展示更新とソフト事業の充実を図りたい

柏葉久子議員

柏葉議員　美幌博物館は魅力に欠けているとの指摘があるが、教育的観点、観光施設としての視点からも施設の有効活用は十分に可能と考える。今後の展望があればお聞かせ願いたい。

教育長　オープンから20年目を迎え、常設展示の老朽化から展示品の傷みが進んでおり、更新が急がれていることは承知しているが、厳しい財政事情を勘案しながら当面は必要最小限の修繕と継続的な更新に努めていきたい。また、館活動の充実を図るため、特別展や企画展の開催に加えて参加型・体験型のソフト事業を積極的に展開し、より多くの皆様に来館していただける魅力ある施設づくりを進めていきたい。

再　美幌博物館の周辺はみどりの村として一体的に整備された空間であり、町内でも有数の観光資源としての役割がある。施設の利用価値を高めるためにも、見て、触れて、遊べる、総合的な施設整備を進めるべきではないか。

教育長　博物館としての機能を考えたとき、教育的施設の充実を図ることが重要なことと認識している。限られたスペースではあるが、より利用される施設づくりを心がけていきたい。

町長　みどりの村は、町が委託した財団法人美幌みどりの村振興公社が管理運営している。現在、より多くの方々に来訪していただける施設運営を目指し、理事長はじめ公社職員が一丸となって取り組んでいるので、理解を願いたい。

柏葉議員　①児童扶養手当法の一部改正により支給額が減額されるなど母子家庭を取り巻く環境は大変厳しい。また、子どもの虐待が社会問題となる中で、町の大切な財産・宝である子どもたちをどのように守り、支援していくのか。

②父子家庭の生活実態に合わせて、学童保育の時間延長や0歳児・幼児に対する保育の充実を図る考えはないか。

町長　①法改正の趣旨は、子育てと生活支援、就業支援、養育費の確保、経済的支援を柱としており、中でも自立・就業支援に主眼を置いた政策となっている。このため、児童扶養手当の支給額がおおむね半額となるが、本地域における就業環境は依然として厳しい状況にあることから、地域の実情に配慮した制度となるよう国に働きかけていきたい。

児童虐待については、関係機関との協力体制を整えるため、平成17年11月に設置した美幌町要保護児童対策協議会を中心に、北見児童相談所とも密接な連携を図りながら対処している。

②父子家庭における乳幼児・児童の受け入れについては、現状の保育時間で支障なく運営されており、時間延長を求める声も具体的には出ていない。町が受け入れを行っていない0歳児保育については、NPO法人ひまわり保育園を利用する保護者を対象に保育料の助成措置を講じている。

町の財産・宝である子どもたちをどう守っていくのか

〝児童虐待は関係機関との協力で保育時間延長には柔軟に対処していきたい〟

再　①具体的にどう国に働きかけていくのか。また、本町における児童虐待の実態を把握しているのならば示されたい。

②学童保育等において保護者による迎えが遅れた場合、どう対応しているのか。

町長　①就業環境の厳しさは道内に共通した課題であり、町村会等を通じて地域の実情をしっかりと国に訴えていきたい。

民生部長　①ここ3年間で北見児童相談所が受け付けた相談件数は7件である。町としては関係機関及び専門機関と連携しながら、小さな問題も見逃さない体制で取り組んでいきたい。

②家庭の事情で迎えが遅れる際には、でき得る範囲内で職員が柔軟に対処している。今後も保護者が安心して就労できる環境づくりに努めたい。

議会事務局からのお願い

議長宛の文書や案内状は、公務日程上の調整が必要となりますので、議会事務局に送付くださいますようお願いします。

〒092-8650　美幌町字東２条北２丁目
美幌町議会事務局　℡73-1111（内線411・412）

意見書を提出しました

道路は道民生活や経済・社会活動を支える最も基礎的なインフラであり、高規格幹線道路から道民生活に最も密着した市町村道に至るまで、北海道の道路網の整備は道民が長年にわたり熱望してきているところからも、中長期的な視野に立って体系的かつ計画的に推進されるべきものであります。

しかしながら、広域分散型社会を形成し、自動車交通への依存度が高い北海道の道路整備は、全国に比べ大きく立ち後れており、特に冬期間の厳しい気象条件などによる交通障害などを解消し、本道における「活力ある地域づくり」や「安全で快適な生活環境づくり」、さらには「観光のくにづくり」を支援する上で、より一層重要となっています。

特に高規格幹線道路ネットワークの形成は、道内の圏域間の交流・連携の強化、地域経済の活性化、高次医療サービスの確保や災害発生時における代替性の強化などを図る上で、そして北海道が自主・自律を目指し、我が国における安定した食料供給基地・観光資源の提供の場などとして、その役割をしっかり担っていくための最重要課題であります。

道路整備に関する意見書

したがって、国においては、昨年末に道路特定財源の見直しに関する具体策が示され、見直しの作業が進められていますが、北海道の道路整備の実情を十分踏まえ、引き続き、道路整備が強力に推進されるよう、次の事項について特段の配慮を強く要望いたします。

1　道路整備を計画的かつ着実に進めるため、受益者負担という道路特定財源制度の趣旨に反することなく、必要な財源を確保すること。

2　今後の具体的な道路整備の姿を示した中期計画を作成するに当たっては、地域間格差への対応、安全・安心の確保、豊かな生活環境の創造等の観点から、道民の道路整備に対するニーズを幅広くくみ取るとともに、道民の期待に応えるべく、道路整備を計画的かつ着実に推進すること。

3　高規格幹線道路ネットワークの早期形成を図るため、現在事業中の区間については、効率的な整備を行うことにより一日も早く供用するとともに、抜本的見直し区間のうち「当面着工しない」とされた区間については、早期に事業化を図ること。

また、利用者の利便性向上を図るため、弾力的な料金設定に努めること。

4　今後、高齢化する道路ストックが増大することを踏まえ、道路網の安全性及び信頼性が確保されるよう、適時適切な修繕等による効率的な道路ストック管理を行うこと。

一般質問

季節労働者対策

季節労働者の生活を守るための対策を検討すべき

町長　国の制度改正を見極めながら関係機関と連携して対応していきたい

大江道男議員

大江議員　①冬期技能講習制度が廃止されたことで季節労働者の生活不安が広がっている。町として冬期間における就労事業の拡大を検討すべきでは。

②道の季節労働者能力開発支援助成金制度が今年３月に廃止されたが、町として早急な制度の復活を道に求めていく考えはないか。

③道の創業支援融資制度や町の融資制度には農林水産業が対象業種となっていない。早急に改善すべきと考えるが。

町長　①これまで季節労働者冬期就労対策事業を12月から３月まで実施してきたが、本年度からその期間を５月まで延長している。また、国の季節労働者冬期援護制度の見直しに伴い、本年10月より通年雇用促進支援事業が開始されるため、本町においても実施に向けて関係機関と協議を進めている。

②通年雇用化に資する資格取得経費の一部を助成する制度が道において検討されている。季節労働者の生活を守るためにも詳細が判明した段階で対応していきたい。

③道及び町の融資制度は北海道信用保証協会の保証付きが条件であり、保証対象業種でなければ融資できない扱いである。今後、農業分野への起業は十分に予想されるので、対象業種の拡大を関係機関に要請していきたい。

ワンコインバスの路線を拡充しては

〝課題は多いが運行業者との協議を続けていきたい〟

大江議員　ワンコインバスは高齢者や通学者を中心に地域の交通網として重要な位置付けにあるが、路線拡充に向けた検討経過を説明願いたい。

町長　町内３地区から路線拡充を求める声があり運行業者との間で協議を進めている。巡回運行の利便性確保、競合路線との調整、運行コストなど課題も多いが路線の拡充について引き続き検討していきたい。

再　町営バスや福祉バス、スクールバスの目的外使用、国・道の施策を活用した地域交通対策についても検討すべきでは。

町長　高齢化が進む中、交通弱者の生活の足を確保するためにも様々な角度から検討していきたい。

副町長　道による新たな交付金制度が近く創設されるとの情報もあるので、本町において対応可能かを判断していきたい。

乳幼児医療費の助成措置拡大については

〝厳しい財政事情から実現は困難な状況にある〟

大江議員　乳幼児医療費無料化制度の創設を国に求めてはどうか。また、町独自の無料化措置を小学校卒業時まで拡充した場合の町の負担額は。

町長　国は３歳未満を対象に医療費の無料化を措置しているが、医療にかかる機会の多い幼児期までの無料化措置を要望していきたい。小学校卒業時まで無料化措置を引き上げた場合の町負担額は約２４００万円、他の制度で救済されている部分を差し引くと約２０００万円である。

再　乳幼児医療費の助成について本町は先進地であると認識しているが、少子化対策として無料化措置の年齢を引き上げる考えはないか。

町長　厳しい財政事情から実現は困難と判断せざるを得ない状況にあるが、健全財政の維持を念頭に置きながらできる範囲において検討したい。

大江議員　道教委は美幌高校と美幌農業高校の再編を検討すべきとの見通しを示したが、地元としての今後の対応は。

教育長　両校ともに地域において重要な役割を担っており存在価値は高いが、子どもの絶対数が減少している中で将来とも２校存置の考えに基づく活動は非常に困難。原則としては２校存置を求めていくが、地元の願いがかなわぬ場合も想定しながら関係者との協議を進めていきたい。

再　歴史ある町内の高校を存続させるためにも諦めることなく地元の思いを訴えていくべき。

教育長　美幌町高等学校再編対策協議会を中心に議論し、道教委に対して再編のあり方について地元から提案できるような要請活動を展開したい。

高校再編問題に対する地元としての対応は

〝道教委に地元からの提案ができる要請活動を展開していきたい〟

美幌町高等学校再編対策協議会

7月臨時会

平成19年第５回臨時議会は、７月19日に招集され、会期を１日間と決定した後、動産の取得、一般会計補正予算を審議、いずれも原案どおり可決して閉会しました。

動産の取得・補正予算を審議

除雪トラック１台を更新

取得から23年を経過した除雪トラックを建設機械整備費補助事業（補助率２／３）で更新するもの。指名競争入札により、除雪トラック（10ｔ級ダンプ型・アングリングプラウ・路面整正装置付）を３４０２万円で三菱ふそうトラック・バス㈱北海道ふそう北見支店から購入。

道路維持作業車を取得

指名競争入札により、道路維持作業車（４ｔ級ダンプ型・ダブルキャブ）を車両本体価格９８７万円に北海道市町村備荒資金組合が設定する利率で計算された利子分を加算した額で、北海道市町村備荒資金組合から購入するもの。

平成３年６月に取得した現有の道路維持作業車については、今後、砂利散布用の作業車として使用。

一般会計補正予算（第２号）

・過年度税還付金の増（個人町民税の訂正申告、法人町民税の確定申告による還付金の増）　４００万円

・牧野維持管理事業費の増（美幌峠牧場取水及び送水施設修繕料）　１７１万１千円

…質疑から…

質　具体的な修繕内容は。

答　６月降雨により水源池上流の法面が崩壊し土砂が流入したため必要となる清掃、配水管老朽化による一部布設替え、低区配水池のポンプ修繕である。

質　水源池の清掃は林道管理者が負担すべきものでは。

答　網走南部森林管理署と現地で協議したが原因者の特定はできていない。自然発生的なものと考えている。

質　今後、同様の修繕が発生することはないのか。

答　適切な維持管理を林道管理者に申し入れるとともに、土砂流入についてもできる範囲で対処できるよう取り組みたい。

◆北海道市町村備荒資金組合

災害に備えるための資金の積み立て及びその積立金の管理運用を行うため、道内全ての市町村で組織した一部事務組合。組合では、①災害対策資金の貸付、②災害応急復旧等に必要とする車両や防災資機材を組合が購入し市町村に譲渡する事業などを行っています。

議会を傍聴しませんか

定例会は年４回（３月・６月・９月・12月）開かれ、臨時会は必要に応じて開かれます。

傍聴手続きは、議場入口の受付票に住所・氏名を記入するだけです。小さなお子様も入場できますので、どうぞお気軽においでください。

９月定例会は18日頃から開かれる予定です

閉会中の継続調査

常任委員会では、閉会中の事務調査として次のような調査活動を進めています。

▼総務文教厚生
- 行財政改革について
- 教育行政について
- 福祉行政について
- 医療行政について

▼経済建設
- 農林業振興について
- 商工振興について

総務文教厚生常任委員会

経済建設常任委員会

子どもたちが議場へ

美幌小学校２年生が施設見学

７月３日、美幌小学校２年生90人が施設見学で議場を訪れました。議会の仕組みや役割について説明を受けた子どもたちは、議会・議員の活動と日常生活が密接な関係にあることを学び、大いに関心を深めていました。

また、初めて入った議場に興味がある様子で、椅子やマイクからなかなか離れようとしない子どもがいるなど、微笑ましい光景が見受けられました。いずれかの日、議場で活躍する姿を思い浮かべていたのでしょうか。

議会ってどんなとこ？

今回のテーマは『一般質問』について

６月定例会では、新任議員を含めて７人の議員が新町長のマニフェストを中心に一般質問を行いました。今回は「一般質問」について紹介いたします。

一般質問とは、議員が町政全般にわたり執行機関（町や教育委員会など）に対し、事務執行の状況及び将来に対する方針等についての考えを聞き、あるいは報告、説明を求めたり、疑問な点について質問するものです。現に議題となっている議案について、賛否の態度決定が可能となるよう不明な点の説明や考えを聞く「質疑」とは本質的に異なるものです。

一般質問は定例会に限って許されているもので、本町議会では、具体的な質問内容を事前に執行機関に通知する通告制を採用しており、事前通告により、明確で責任ある答弁が期待できるものです。なお、質問の回数に制限はなく、１人１時間（答弁含む）の持ち時間制をとっています。

一般質問は、議員固有の権限の一つで、議案審議とともに議会活動の中にあって最も重要なものであり、行政の執行を監視し建設的な批判を加えることで、公正な行政を確保しようとするものです。

閉会中の活動

◆新任議員が心得を学ぶ

町村議会新任議員研修会が７月13日網走市で開催され、本町議会からも新任議員２人が参加。北海道町村議会議長会事務局長の勢籏了三氏から、議員活動における基本使命や会議原則について講演を受けました。

◆研鑽深めた議員研修会

北海道町村議会議長会の主催による北海道町村議会議員研修会が７月３日札幌市で開催されました。

弁護士・さわやか福祉財団理事長の堀田力氏から「町村議員に期待する」、また、東京大学名誉教授の大森彌氏からは「分権時代の基礎自治体とその議会」と題した講演を受け、地方を取り巻く情勢や地方自治のあり方、自治体運営と町村議会の役割について大いに研鑽を深めました。

あとがき

▼新体制で町議会がスタートして早４カ月が過ぎました。

▼議員定数が減ったことで議員一人ひとりが担う役割と責任がより一層重くなり、身の引き締まる思いであります。

▼７月16日、新潟県中越地方を中心に震度６強を観測する地震が発生しました。被災された皆様には心からお見舞いを申し上げます。

▼安全で安心な地域社会を築くため、議会が持つ「具体的な政策の最終決定」と「行財政運営のチェック機関」として、町民の負託に応えるための議会活動を追求し、美幌の将来に向けた建設的な議論を展開していかなければならないと強く感じています。

▼広報「びほろ町ぎかい」は北海道町村議会議長会主催の第27回議会広報コンクールにおいて３年ぶり通算６度目の特選を受賞しました。今後も、わかりやすく充実した紙面づくりに努めて参りますので、お気づきの点などありましたらご一報を願います。

広報編集委員会
委員長　横関望吉応
委　員　大江　道男
委　員　橋本　博之

発行　美幌町議会　編集　議会広報編集委員会
〒092－8650　北海道網走郡美幌町字東２条北２丁目
☎0152(73)1111　内線412